

(第1面)

産業廃棄物処理計画書			
2024年 05月 30日			
静岡県知事殿			
提出者			
住所 静岡県榛原郡吉田町大幡463番地の1			
氏名 富士フィルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社			
取締役執行役員 静岡エリア長 早川 篤			
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)			
電話番号 0548 - 34 - 2500			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。			
事業場の名称	富士フィルムマテリアルマニュファクチャリング株式会社 第六製造本部		
事業場の所在地	静岡県	榛原郡	吉田町大幡463番地の1
計画期間	2024/4/1 ~ 2025/3/31		
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
① 事業の種類	プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
② 事業の規模	資本金 5000万円		
③ 従業員数	370名		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①参照		

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項									
(管理体制図) 別紙②参照									
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>産業廃棄物の種類</th> <th>排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>916.149 t</td> </tr> <tr> <td>汚泥（泥状のもの）</td> <td>532.000 t</td> </tr> <tr> <td>廃油</td> <td>16.100 t</td> </tr> </tbody> </table>	産業廃棄物の種類	排出量	廃プラスチック類	916.149 t	汚泥（泥状のもの）	532.000 t	廃油	16.100 t
	産業廃棄物の種類	排出量							
	廃プラスチック類	916.149 t							
	汚泥（泥状のもの）	532.000 t							
	廃油	16.100 t							
(これまでに実施した取組)									
<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチック (1) 原料の再生利用 (2) 有価物化による排出抑制 ・汚泥 (1) 凝集剤の使用抑制 ・廃油 (1) 有価物分別による排出量抑制 									
【目標】									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>産業廃棄物の種類</th> <th>排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>1,100.000 t</td> </tr> <tr> <td>汚泥（泥状のもの）</td> <td>600.000 t</td> </tr> <tr> <td>廃油</td> <td>20.000 t</td> </tr> </tbody> </table>	産業廃棄物の種類	排出量	廃プラスチック類	1,100.000 t	汚泥（泥状のもの）	600.000 t	廃油	20.000 t	
産業廃棄物の種類	排出量								
廃プラスチック類	1,100.000 t								
汚泥（泥状のもの）	600.000 t								
廃油	20.000 t								
(今後実施する予定の取組)									
<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチック (1) 原料の再生利用継続 (2) 有価物化による排出抑制継続 ・汚泥 (1) 凝集剤の使用抑制継続 ・廃油 (1) 有価物分別による排出量抑制継続 									
産業廃棄物の分別に関する事項									
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 自主的に、定めた分別基準に従いそれぞれの場所に保管する。								
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特に無し。								

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量
	汚泥（泥状のもの）	0.000 t	443.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
(これまでに実施した取組) 活性汚泥処理			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量
	汚泥（泥状のもの）	0.000 t	487.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t

(今後実施する予定の取組)

活性汚泥処理の継続

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

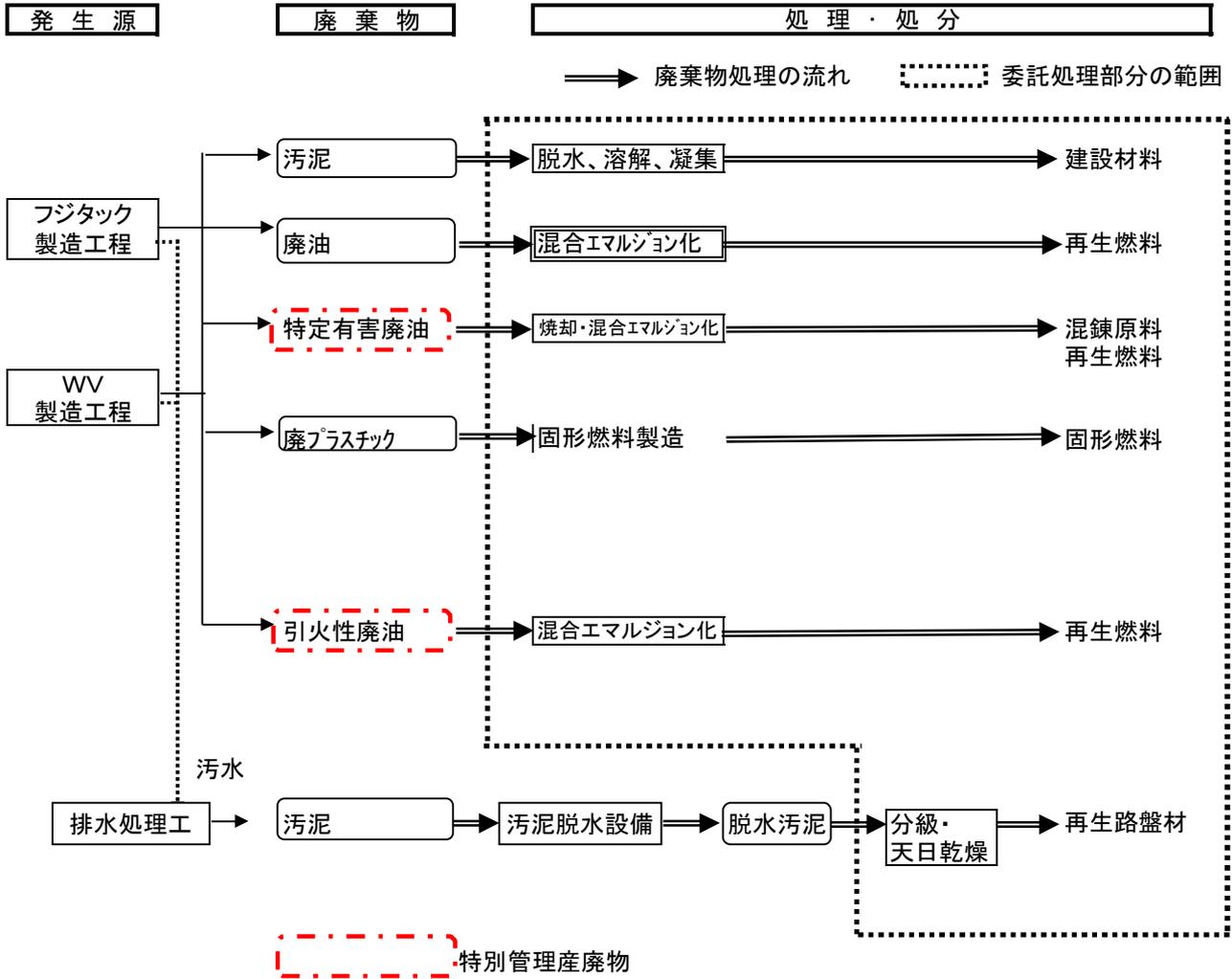
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
		① (t) ② (t) ③ (t) ④ (t) 全処理委託量 (t)
	廃プラスチック類	336.975 579.174 0.000 0.000 916.149
	汚泥（泥状のもの）	78.100 0.000 0.000 0.000 78.100
	廃油	16.000 0.000 0.000 0.000 16.000
(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチック <ul style="list-style-type: none"> (1) 有価物分別による発生量の削減 ・汚泥 <ul style="list-style-type: none"> (1) 凝集剤使用量抑制による処理委託量削減 ・廃油 <ul style="list-style-type: none"> (1) 有価物分別による処理委託量削減 		

		【目標】				
②計画	産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				全処理委託量 (t)
		① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	
	廃プラスチック類	400.000	700.000	0.000	0.000	1,100.000
	汚泥（泥状のもの）	600.000	0.000	0.000	0.000	500.000
	廃油	20.000	0.000	0.000	0.000	14.000
	（今後実施する予定の取組） ・廃プラスチック （1）有価物分別による発生量の削減 ・汚泥 （1）凝集剤使用量抑制による処理委託量削減 ・廃油 （1）有価物分別による処理委託量削減					
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

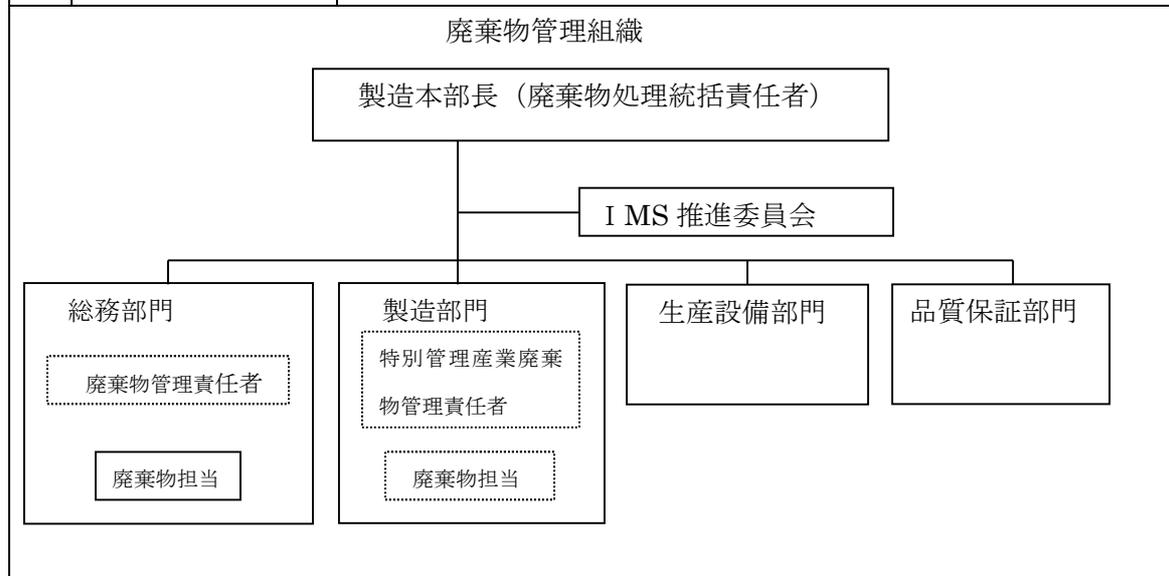
別紙① (特別管理)産業廃棄物処理フロー図



別紙② 管理体制図

(1)管理体制

統括責任者		所属：富士フイルムマテリアルマニュファクチャリング(株) 第六製造本部 役職・氏名：製造本部長 竹中 修
廃棄物管理責任者		組織名：総務部 役職・氏名：チーフ 佐藤 祐
割	運営会議	○廃棄物処理事項に係る最終承認 ・議長—製造本部長 ・委員—各部部長
	IMS 推進委員会	○廃棄物処理の課題に関する検討 廃棄物に係る重要課題がある場合必要な事項を審議決定して工場長に答申する。 ・管理責任者 ・委員—関連部門部課長、担当者 ・事務局
	廃棄物処理 統括責任者	○廃棄物処理方針の策定 ○廃棄物管理に関する規則類の策定・改廃
	廃棄物管理責任者	○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○処理業者、再生利用者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○監督官庁への各種報告 ○社員に対する教育・啓蒙 ○その他関連する事項



(2) 管理体制の強化

会社内各職場での廃棄物管理を円滑に進めるため、横断組織である IMS 推進委員会を編成している。

(3) 教育・研修

発生する廃棄物の種類、発生状況、処理方法、処理に関する留意事項を整理し、従業員等に教育を行う。

○廃棄物管理基礎教育

全社員に対し、会社において発生する産業廃棄物の管理、関連する法律等について随時教育する。

○廃棄物担当者啓蒙

各職場における廃棄物担当者を対象として、電子マニフェスト登録等実務について随時啓蒙する。

(4) 情報公開

廃棄物処理に関する信頼性を確保するため、廃棄物の発生、分類、再生利用状況について情報公開に努める。